

学校番号	3016
------	------

平成 31 年度 国語科

教科	国語科	科目	現代文B	単位数	2	年次	3
使用教科書	「新 探求現代文B」 (桐原書店)						
副教材等	「ちくま評論選」 (筑摩書房) 「現代文キーワード読解」 (Z会) 他						

1 担当者からのメッセージ

・ 正確に読み解き、深く思考し、的確に表現する力を完成させましょう。相当な時間と、精神的エネルギーを注入しないと、「現代文」で扱う内容を捉える力は養われません。覚悟して下さい。

・ あらゆる知識を総動員する必要があります。感覚、ではどうにもならない。教科枠を超えた広くかつ深い学びが、現代文の力として集約されます。やがてこのことを痛感するでしょう。

・ 書けないと、どうにもなりません。何度も書き、書かれたものを読まれる経験を繰り返すしか、書けるようにはならない。粘り強くやっていきましょう。

2 学習の到達目標

・ 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価できる。

・ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうことができる。

・ 批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。

・ 収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現することができる。

・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 (ノート、ワークシート等)	行動の観察 (発表等のパフォーマンスの評価)	記述の確認及び分析 (ワークシート、原稿用紙)	記述の確認及び分析(ワークシート) 定期考査	行動の観察 記述の確認 (ノート、ワークシート等) 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。					

4 学習の活動

学期	単 元 名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a 態 度	b 話 す	c 書 く	d 読 む	e 知 識		
前期	評 論 の 内 容 を 理 解 す る Ⅰ	教材： 現代評論文	○	○	○	◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 b: 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 c: 自分の考えが、確実な根拠に支えられ、前後矛盾することなく論理的に展開している文章を書いている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、c、d、e： 行動の観察及び 記述の点検 c、d、e： 定期考査
	小 説 の 内 容 を 理 解 す る Ⅰ	教材： 現代小説	○	○	○	◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 b: 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 c: 自分の考えが、確実な根拠に支えられ、前後矛盾することなく論理的に展開している文章を書いている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、c、d、e： 行動の観察及び 記述の点検 c、d、e： 定期考査
後期	評 論 の 内 容 を 理	教材： 現代評論文	○	○	○	◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 b: 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方	a、b、c、d、e： 行動の観察及び 記述の点検 c、d、e： 定期考査

	解 する Ⅱ						を豊かにしている。 c: 自分の考えが、確実な根拠に支えられ、前後矛盾することなく論理的に展開している文章を書いている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	
	小 説 の 内 容 を 理 解 す る Ⅱ	教材: 近代小説	○	○	○	◎	○ a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 b: 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 c: 自分の考えが、確実な根拠に支えられ、前後矛盾することなく論理的に展開している文章を書いている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、c、d、e: 行動の観察及び 記述の点検 c、d、e: 定期考査
	評 論 や 小 説 の 内 容 を 表 現 す る	教材: 近代小説 近代評論文	○	○	◎	○	○ a: 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。 b: 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 c: 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、c、d、e: 行動の観察及び 記述の点検 c、d、e: 定期考査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度
d: 読む能力

b: 話す・聞く能力 c: 書く能力
e: 知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。

学校番号	3016
------	------

平成 31 年度 国語科

教科	国語科	科目	古典 A	単位数	2	年次	3
使用教科書	古典 A 大鏡源氏物語諸家の文章（第一学習社）						
副教材等	体系古典文法（数研出版）・新明説漢文（尚文出版）・日本文学史必携（第一学習社）・カラー版新国語便覧（第一学習社）・核心古文単語（尚文出版）						

1 担当者からのメッセージ

- ・古典を読むほんとうの喜びを味わいましょう。
 - 1 比較的長いテキストに向き合うことによって、表現の特質や内容の深さを読み取る力を養いましょう。
 - 2 作品全体が伝えてよこすメッセージをキャッチしましょう。時代、文化、思想、書き手の置かれていた状況にも思いを致しましょう。
 - 3 意見を交わすことで読みを深めましょう。自他の読みを比べることを通じて、読むことの醍醐味を味わいましょう。
- ・基本的な知識についても、その格闘の中で自然な形で習得できるでしょう。
- ・何のために古典を学んでいるか、わかる瞬間が来ます。〈そのとき〉を目指して進みましょう。

2 学習の到達目標

- ・古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察できる。
- ・古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりすることができる。
- ・古典などを読んで、言語文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解することができる。
- ・伝統的な言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探究して、我が国の伝統と文化について理解を深めることができる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観 点 の 趣 旨	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 (ノート、ワークシート等)			記述の確認及び分析(ワークシート) 定期考査	行動の観察 記述の確認 (ノート、ワークシート等)

					定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。					

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期	歴史物語を読む	教材: 「大鏡」	○			◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えようとしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認及び定期考査 e: 行動の観察及び記述の点検
後期	物語を読む	教材: 「源氏物語」	○			◎	○	a: 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えようとしている。 d: 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。 d: 文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたのか、このように書いたのかなどに迫っている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認及び定期考査 e: 行動の観察及び記述の点検

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 話す・聞く能力 c: 書く能力
d: 読む能力 e: 知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。

学校番号	3016
------	------

平成 31 年度 国語科

教科	国語科	科目	文科古典 B	単位数	4	年次	3
使用教科書	「古典 B〔古文・漢文〕」（三省堂）						
副教材等	体系古典文法（数研出版）・新明説漢文（尚文出版）・日本文学史必携（第一学習社）・カラー版新国語便覧（第一学習社）・核心古文単語（尚文出版）						

1 担当者からのメッセージ

- ・これまでの学習をふまえ、次の力をつけることを目標としましょう。
 - 1 初めて読む文章について、既習の知識などを総動員して、その主旨を読み解く力。
 - 2 たんに現代語に置き換えるのではなく、内容を深く捉え、表現する力。
- ・予習に重点を置かなければ、そのような力はつきません。粘り強く考える姿勢を身につけましょう。また、基本的な知識の学習も最後まで重要です。繰り返し学び、定着させましょう。
- ・何のために古典を学んでいるか、わかる瞬間が来ます。〈そのとき〉を目指して進みましょう。

2 学習の到達目標

- ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解できる。
- ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえることができる。
- ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。
- ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察することができる。
- ・古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めることができる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観 点 の 趣 旨	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
主 た る 評 価 方 法	行動の観察 記述の点検 (ノート、ワークシート等)			記述の確認及び分析(ワークシート) 定期考査	行動の観察 記述の確認 (ノート、ワークシート等) 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期	古文の内容を理解するⅠ	教材: 「随筆」 「日記文学」	○			◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えようとしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認及び定期考査 e: 小テスト
	漢文の内容を理解するⅠ	教材: 「小話」	○			◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えようとしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えている。 e: 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認及び定期考査 e: 小テスト
	古文の内容を理解するⅡ	教材: 「物語」 「歴史物語」	○			◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えようとしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認及び定期考査 e: 小テスト
	漢文の内容を理解するⅡ	教材: 「漢詩」	○			◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えようとしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えている。 e: 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認及び定期考査 e: 小テスト

後期	古文の内容を理解するⅢ	教材: 「評論」	○			◎	○	a:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えようとしている。 d:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。 e:古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト
	漢文の内容を理解するⅢ	教材: 「随筆・詩話」 「史伝」	○			◎	○	a:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えようとしている。 d:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。 e:漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト
	古文の内容を理解するⅣ	教材: 「近世文学」	○			◎	○	a:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えようとしている。 d:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。 e:古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト
	漢文の内容を理解するⅣ	教材: 「日本漢文」	○			◎	○	a:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えようとしている。 d:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。 e:漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:話す・聞く能力 c:書く能力
d:読む能力 e:知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。

学校番号	3016
------	------

平成 31 年度 国語科

教科	国語科	科目	理科古典 B	単位数	2	年次	3
使用教科書	「古典 B〔古文・漢文〕」（三省堂）						
副教材等	体系古典文法（数研出版）・新明説漢文（尚文出版）・日本文学史必携（第一学習社）・カラー版新国語便覧（第一学習社）・核心古文単語（尚文出版）						

1 担当者からのメッセージ

- ・これまでの学習をふまえ、次の力をつけることを目標としましょう。
 - 1 初めて読む文章について、既習の知識などを総動員して、その主旨を読み解く力。
 - 2 たんに現代語に置き換えるのではなく、内容を深く捉え、表現する力。
- ・予習に重点を置かなければ、そのような力はつきません。粘り強く考える姿勢を身につけましょう。また、基本的な知識の学習も最後まで重要です。繰り返し学び、定着させましょう。
- ・何のために古典を学んでいるか、わかる瞬間が来ます。〈そのとき〉を目指して進みましょう。

2 学習の到達目標

- ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解できる。
- ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえることができる。
- ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。
- ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察することができる。
- ・古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めることができる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観 点 の 趣 旨	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
主 た る 評 価 方 法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）			記述の確認及び分析（ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期	古文の内容を理解するⅠ	教材: 「随筆」 「日記文学」	○			◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えようとしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認及び定期考査 e: 小テスト
	漢文の内容を理解するⅠ	教材: 「小話」	○			◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えようとしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えている。 e: 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認及び定期考査 e: 小テスト
	古文の内容を理解するⅡ	教材: 「物語」 「歴史物語」	○			◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えようとしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認及び定期考査 e: 小テスト
	漢文の内容を理解するⅡ	教材: 「漢詩」	○			◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えようとしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えている。 e: 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認及び定期考査 e: 小テスト

後期	古文の内容を理解するⅢ	教材：「評論」	○			◎	○	a:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えようとしている。 d:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。 e:古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト
	漢文の内容を理解するⅢ	教材：「随筆・詩話」「史伝」	○			◎	○	a:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えようとしている。 d:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。 e:漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト
	古文の内容を理解するⅣ	教材：「近世文学」	○			◎	○	a:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えようとしている。 d:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。 e:古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト
	漢文の内容を理解するⅣ	教材：「日本漢文」	○			◎	○	a:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えようとしている。 d:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。 e:漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:話す・聞く能力 c:書く能力
d:読む能力 e:知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。

平成 31 年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史 B	単位数	4 単位	年次	3 年次
使用教科書	世界史 B 新訂版 (実教出版)						
副教材等	グローバルワイド最新世界史図表 初訂版 (第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

◇世界史は社会科の他の科目の内容と密接に結びついています。授業で学んだ歴史的事象を、日本史と連動させて考えたり、地理的にとらえ直すよう、常に心がけること。そのために、ワークシートや小論文などの課題にも積極的に取り組むことが重要である。

◇現代社会の出来事について世界史の大きな枠組みを踏まえて考察し、自らの意見や考えを持ち、発信できる力を身につけてほしい。そのために、諸資料の読み取りの方法にも精通すること。

2 学習の到達目標

◇諸資料に基づいて世界の歴史を理解し、文化の多様性・複合性を考察できる広い視野を養う。

◇日本史との関連性を意識しながら歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本国民に必要な資質を養う。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用 of 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	古代から近世を含めた世界の歴史に対する関心を高め、文化の多様性を追究する意欲を持つ。また、国際社会で責任を持って行動できる、日本国民としての資質を形成している。	世界史を学びながら日本史的・地理的事象との関連性を含めて多面的に考察し、現代社会の変化を公正に判断して、歴史的経過・結果や自らの意見を適切に表現できている。	与えられた教材の中の史料や、自らの探究活動で得られた諸資料をもとに、有用な情報を選択し、適切に解釈して、小論文やレポートの作成にうまく生かしている。	諸地域世界の生活・文化の特色を踏まえながら、時間軸・空間軸の双方を意識した、論理性の高い知識整理ができている。また、地理的・日本史的事象との関連も意識している。
評 価 方 法	レポート 主題学習においては小論文の作成	定期考査 ワークシート 主題学習においては小論文の作成	定期考査 レポート 主題学習においては小論文の作成	定期考査 ワークシート 主題学習においては小論文の作成
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期Ⅰ	諸地域世界の形成	＊世界史と自然の関係 ＊世界史と日本史の関係 ＊西アジア・地中海世界 ＊南アジア・東南アジア世界	○ ○	○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: 世界史の源流となる諸地域世界の形成過程に、強い関心を持っている。 b: 学習内容を多面的に考察し、歴史的経過や因果関係を適切に表現できている。 c: 必要な諸資料を収集し、取捨選択して、与えられた主題に適した年表・図・文章などをまとめることができている。 d: 学習内容を日本史的・地理的事象と関連付け、世界の歴史に対する理解を深めている。	定期考査 ワークシート レポート
前期Ⅱ	諸地域世界の形成	＊東アジア世界 ＊中央ユーラシア世界 ＊アフリカと南北アメリカ世界 ＊主題学習「時間軸で再整理する世界史」	○	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: アジアを含む諸文明圏の発展過程を、意欲的に考察している。 b: 同上 c: 同上 d: 同上	定期考査 ワークシート 小論文
前期Ⅲ	諸地域世界の交流と再編	＊イスラーム世界の登場 ＊ヨーロッパ世界の形成と展開 ＊モンゴル帝国と諸地域の交流 ＊主題学習「空間軸で再整理する世界史」	○	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: イスラーム世界やモンゴル帝国を含めた全ユーラシア規模のネットワークが果たした役割について、強い関心を持っている。 b: 同上 c: 同上 d: 同上	定期考査 ワークシート 小論文
後期Ⅰ	諸地域世界の統合と変容	＊近世ヨーロッパの諸事象 ＊アジアの帝国と大交易時代 ＊19世紀の欧米諸国 ＊主題学習「絵画・文学・音楽でよみとく歴史」	○	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: ヨーロッパの進出とアジアの繁栄を軸に、世界の一体化と社会の変容を理解する意欲が感じられる。 b: 同上 c: 同上 d: 同上	定期考査 ワークシート 小論文
後期Ⅱ	地球世界の到来	＊帝国主義時代以降の世界 ＊第二次大戦後の世界 ＊主題学習「世界史を未来に生かす」	○ ○ ○	○	○ ○	○	a: 戦後史の理解をいっそう深めながら、人類が直面する課題について自主的な考察を深めている。 b: 同上 c: 同上 d: 世界の動向と日本のかかわりに着目しながら、21世紀の世界について展望できる知識を身に付けている。	レポート 小論文

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史 B	単位数	4 単位	年次	3 年次
使用教科書	詳説日本史 B (山川出版社)						
副教材等	最新日本史図表 (第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ①2 年生で学習した世界史の知識を踏まえ、日本と世界各地の政治・経済・社会・文化の共通点・相違点を比較して考察し、歴史的思考力を養ってほしい。
- ②日本史の重要史料の解説を通じて、日本史に対する認識や知識を深めよう。

2 学習の到達目標

日本史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、日本の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を養う。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用 of 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	①レポート提出 ②授業観察 (授業への積極的参加、発問への回答等)	①定期考査 (前期第一中間考査・前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計 5 回実施) ②レポート提出 (ワークシート、長期休暇宿題レポート等)	①定期考査 (前期第一中間考査・前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計 5 回実施) ②授業観察 (授業内での積極的な史料活用、発問への回答等)	①定期考査 (前期第一中間考査・前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計 5 回実施) ②授業観察 (授業への積極的参加、発問への回答等)
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	主な評価の観 点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	の あ け ぼ の 1章 日本文化	①更新世において日本はどのような状況であったかを見ていく。 ②弥生文化が大陸から伝播し、水稻農業が開始されることを理解する。 ③古墳の発達に注目しながら大王の政治的成長の様相を把握する。	○				a: 旧石器文化、縄文文化、弥生文化及び古墳文化の時代の社会に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	前期第一中間考査、前期第二中間考査、前期末考査の計3回の考査。
	2章 律令国家の形成	①推古朝の政治を内政、外交の両面から理解する。 ②天武・持統朝において、中央集権国家が実現したことを理解する。 ③平城京造営・辺境政策・遣唐使派遣を理解する。 ④律令再編策がどのように行われたか理解する。		○	○		b: 古代国家の推移から課題を見だし、東アジア世界との関係などに関連付けて多面的・多角的に考察している。 c: 古代国家の展開と飛鳥・白鳳・天平文化などの特色に関する文献、絵画などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、考察した過程や結果を適切に表現している。	
	3章 貴族政治と国風文化	①藤原北家の進出から摂関政治にいたる過程について考え、その権力の基盤について理解する。 ②文化の国風化とその特質について理解する。 ③寄進地系荘園の成立過程を把握する。			○	○	c: 国風文化の展開及び中世社会の萌芽に関する文献、絵画などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けようとしている。 d: 摂関政治などについての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。	授業観察。
	4章 中世社会の成立	①後三条天皇の政治と、院政の仕組みを把握し、平氏政権の性格も検討する。 ②鎌倉幕府の政治機構を把握し、その特質を理解する。 ③北条執権政治の下での幕府諸政治機構の整備とその特質を理解する。 ④蒙古襲来について、我国の防衛体制にふれながら理解し、得宗の専制と御家人の窮乏によって生じた幕府政治の動揺を認識する。	○			○	a: 武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 d: 中世社会の多様な展開及び武家・公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向についての基本的な事項を東アジア世界との交流と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	レポート提出。

	5章 武家社会の成長	①建武の新政と南北朝の動乱の契機を理解する。 ②室町幕府の政治・外交の変遷について考察すると共に、室町文化の特質を理解する。 ③伝統的諸権威の没落を応仁の乱・下剋上の学習を通して理解する。 ④戦国大名の領国支配について学ぶ。	○			b: 産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかのかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向から課題を見いだし、日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭と関連付けて多面的・多角的に考察している。	
後期	6章 幕藩体制の確立	①織豊政権による統一政策とその意義について学ぶ。 ②幕藩体制の特質を理解する。③「鎖国」の実態とその歴史的意義についても理解する。	○			a: 織豊政権、幕藩体制の特質に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 c: 幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成に関する文献、絵画、地図、統計・グラフなどの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	後期中間 考査、学年 末考査の 計2回の 考査。
	7章 幕藩体制の展開	①幕藩体制が安定した時代の幕府政治について学ぶ。 ②経済機構、交通・技術の発展、都市の繁栄について学ぶ。			○		
	8章 幕藩体制の動揺	①幕藩体制の動揺の要因と、幕政改革の動向と特色について学ぶ。 ②幕藩体制の衰退や「鎖国」体制の動揺の様子を理解する。					
	9章 近代国家の成立	①開国から江戸幕府の滅亡に至る過程を国際環境と関連させて考察・理解する。 ②明治政府が、欧米列強と対等の地位を獲得するために諸制度の改革を推進して、近代化を図った経緯を理解する。 ③専制政治を強める明治政府に対抗して自由民権運動が高揚したこと、政府が憲法や議会制度を整備する経緯を考察・理解する。 ④産業革命を通じて日本の近代産業・資本主義が確立したこと、様々な問題が発生したことを理解する。 ⑤明治時代、伝統文化の上に欧米文化を取り入れた近代文化が成立したことを具体例について考え、理解する。	○		○	b: 我が国の対外政策の推移と近代産業の成立から課題を見いだし、条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係の変化及び産業革命の進行と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。 d: 明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程や我が国の対外政策の推移と近代産業の成立についての基本的事柄を条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	授業観察。

10章 二つの世界大戦とアジア	①第一次世界大戦が日本にどのような影響を与え、日本がどのように対応したかを考察する。 ②この時期に、政党政治・デモクラシーの風潮が高揚したことを、具体例を考え、理解する。 ③大正時代、大衆文化が発展したことを理解する。 ④大戦後の恐慌、関東大震災、金融恐慌、世界恐慌などの経済の動向、国際関係の変化、軍部の台頭による政治状況の変化について考察する。 ⑤満州事変から太平洋戦争に至る経過、戦争が日本国民のほか諸国の人々に多大な損害を与えたことを理解する。	○				a: 政党政治の推移と大衆文化の形成や二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 d: 日本の立場と国際関係などを関連付けて、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化についての基本的な事柄理解し、その知識を身に付けている。	レポート提出。
下の日本 11章 占領	終戦後の占領下の民主化政策、サンフランシスコ平和条約の締結と独立などの日本の戦後復興の経過を理解する。				○	b: 我が国の国際貢献の拡大などと関連付けて、日本の課題及び役割を認識するとともに社会の変化を踏まえ公正に判断している。	
成長の時代 12章 高度	国際社会への復帰、経済復興と高度経済成長について現代の事象と関連付けながら、考察する。				○	d: 占領政策と諸改革、平和条約と独立などの基本的事柄を当時の国際関係の推移と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
する世界と日本 13章 激動	冷戦終結・平成不況など、世界の動向と関連づけてこれからの日本のあり方を考える。						

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用 of 技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単位（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理 B	単位数	4 単位	年次	3 年次
使用教科書	「地理 B」(東京書籍),「新詳高等地図」(帝国書院)						
副教材等	「新詳地理資料 complete 2018」(帝国書院),「2018 データブックオブザワールド」(二宮書店), 「センター試験地理 B 単元別問題集」(駿台文庫)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

地理とは地球上の数多くの「事象」を推理し理論的に解明していく学問である。以下にその主眼となる事項を記す。

- ・必要最小限の知識力を身に付ける。授業中に絶対覚えると言われた箇所は必ず暗記しておくことである。
- ・理解力を身に付ける。例えば気候の問題であれば「雨が少ないところ」ではなく「そこはなぜ雨が少ないのか」を理解できるようになることである。
- ・読み取る力を身に付ける。例えば人口統計の問題であれば「出生率や都市人口率が低い国はどこか」ではなく「発展途上国と先進国では出生率や都市人口率にどのような傾向があるか」を読み取れるようになることである。

2 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用 の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	授業での観察 発表 ノート	定期考査 (記述問題) ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 確認テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期Ⅰ	様々な地図と地理的技能	・地理情報と地図 ・地図の活用と地域調査	○	○	○	○	a:学習内容に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 b:学習内容について、各時代の世界観や地図の有用性、生活圏の地域的特色や地図を活用した地域調査の方法などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:学習内容に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:学習内容について、各時代の世界観や地図の有用性、生活圏の地域的特色や地図を活用した地域調査の方法などを理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 授 業 での 観 察 ワークシート 発表
前期Ⅱ	現代世界の系統地理的考察	・自然環境 ・資源、産業 ・人口、都市・村落 ・生活文化、民族・宗教	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	a:学習内容に関する諸事情の分布や動向、人間生活との関わり、民族と国家の関係などに関する考察を基に、学習内容に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 b:学習内容について、分布や動向、人間生活との関わり、民族と国家の関係などを系統地理的に考察し、環境、資源・エネルギー、食料、人口、居住・都市、民族、領土などの問題を大観させ、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 確認テスト 授 業 での 観 察 ノート

							c:学習内容に関する諸資料を収集し, 有用な情報を選択して, 読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:学習内容について, 分布や動向, 人間生活との関わり, 民族と国家の関係などとともに, 環境, 資源・エネルギー, 食料, 人口, 居住・都市, 民族, 領土などの問題や, 系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し, その知識を身に付けている。	
後期	現代世界の地誌的考察	・現代世界の地域区分 ・現代世界の諸地域 ・現代世界と日本	○	○	○	○	a:学習内容に対する関心と課題意識を高め, それを意欲的に追究し, 捉えようとしている。 b:現代世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の概念, 地域区分の意義, 有用性を多面的・多角的に考察する。現代世界の諸地域にみられる地域的特色や地球的課題を地誌的に考察する。現代世界における日本の国土の特色や抱える地理的な諸課題を多角的・多面的に考察し, その解決の方向性や将来の国土の在り方などを公正に判断する。以上の過程や結果を適切に表現している。 c:学習内容に関する諸資料を収集し, 有用な情報を選択して, 読み取ったり図表などにまとめたりしている。	定期考査 確認テスト 授業での 観察 発表

							d:現代世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の概念, 地域区分の意義, 有用性を理解し, その知識を身に付けている。現代世界の諸地域にみられる地域的特色や地球的課題を地誌的に考察する方法を理解し, その知識を身に付けている。現代世界における日本の国土の特色や抱える地理的な諸課題を理解し, その知識を身に付けている。	
--	--	--	--	--	--	--	---	--

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号

3016

平成31年度 公民科

教科	公 民	科目	倫 理	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	高等倫理 新訂版 (実教出版)						
副教材等	テオリア最新倫理資料集 (第一学習社) 4 ステージ演習ノート 倫理 (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・倫理の学習については、単なる事項の暗記ではその目的の多くは達成されない。思想家の人生やその思想を、自らの在り方や生き方に照らして追体験することで、より深い理解が得られる。その意味で、現代社会のさまざまな課題や、自分自身のかかえる問題意識との関連を常に念頭において学習を進めてほしい。
- ・現代社会や政治経済といった公民科の科目に限らず、日本史や世界史、さらには現代文や古文・漢文、保健や家庭科など幅広い教科・科目との関連を踏まえ、幅広く思考する力をつけてほしい。
- ・ワークシートや考査ごとの小論文などにも積極的に取り組み、自らの思索を深めよう。

2 学習の到達目標

- ・先哲の思想に学び、自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせる。
- ・現代社会における倫理的な諸課題の、思想的な背景を理解するとともに、解決への道筋を自ら考えようとする、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	自己形成に関わる様々な考え方への関心を高め、人格の形成と自己の確立に努めようとする実践的意欲をもつとともに、これらについての諸課題を探究する態度を身に付けようとする。	自己の確立について広く課題を見だし、多面的・多角的に考察し探究するとともに、自らの在り方・生き方に関わる主体的な立場から判断し、その過程や結果を、文章などで適切に表現している。	人間の在り方・生き方、さらに現代社会の諸課題に関する諸原典や資料を収集し、深く理解するとともに、その内容を自己の確立に資するよう活用している。	自己形成や人間の在り方生き方などに関わる先哲や宗教、様々な思想家について、自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。
評 価 方 法	ワークシート 新聞記事などに基づくレポート 定期考査ごとの小論文	定期考査 定期考査ごとの小論文	定期考査 ワークシート レポート	定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめる。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 1	現代に生きる 自己の課題	・青年期の意義 ・青年期の課題	○ ○	○	○	○	a: 青年期の意義に関心を持ち、主体的に取り組む意欲を持つ。 b: 青年期の成立と延長の意味と課題は何かを考え表現する。 c: 青年期の在り方について自分の意見をまとめられる。 d: 青年期の意義・課題についての知識を深める。	定期考査 ワークシート
前期 2	人間としての自覚	・ギリシア思想 ・キリスト教 ・イスラーム ・仏教 ・中国思想 ・芸術と人生	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: 先哲や宗教に興味を持ち、自らと関連づける態度を養う。 b: 多様な考えを比較して考え、その価値を判断し表現できる。 c: 自らが興味を持つ思想について、理解を資料等で深める。 d: 様々な宗教や思想の類似点や差異を理解する。	定期考査 小論文
前期 3	国際社会に生きる 日本人としての自覚	・古代日本人の思想 ・日本の仏教思想 ・近世日本の思想 ・西洋思想の受容と展開	○ ○ ○ ○	○	○ ○	○ ○ ○	a: 日本の思想への関心を落ち、その意義を理解しようとする。 b: 日本文化の独自性と普遍性が何かを考え、表現する。 c: 多くの思想家から、自らの生き方に関わる人物を選べる。 d: 世界との関わりの中で日本の思想の特徴を理解している。	定期考査 小論文
後期 1	現代に生きる人間の倫理	・ルネサンス・宗教改革 ・近代の自然観・新しい学問の方法 ・社会契約論/カント/ヘーゲル ・功利主義/プラグマティズム/社会主義/実存主義 ・現代思想 理性・言語への反省/他者へのまなざし	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a: 近現代思想に関心を持ち思索の糧としようとする。 b: 思想相互の関係を考え、それぞれの是非を判断し、自らの立場を文章などで表現できる。 c: 各思想家の原典資料を理解し、その趣旨を把握できる。 d: 近現代思想の継承・対立関係を理解し、思想の発展を知る。	定期考査 小論文
後期 2	現代の諸課題と倫理	・生命倫理 ・環境倫理 ・家族/地域社会/高度情報化社会/異文化共生の課題/人類の福祉	○ ○ ○	○	○ ○ ○	○ ○	a: 現代社会の課題を自らの問題として取り組もうとする。 b: 問題の因果関係や背景を考察し、解決策を自ら示せる。 c: 様々なメディアを活用する。 d: 問題の要点を理解する。	定期考査 レポート

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 資料活用 of 技能 d: 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成 31 年度 公民科

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	高校 政治・経済（実教出版）						
副教材等	政治・経済（東京法令出版） 4 ステージ演習ノート 政治・経済（数研出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・政治経済は、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、考察する科目であるが、その際に、地理的、歴史的、哲学的知識など幅広い知識が求められる。特に政治経済を学ぶ人は、他の社会科学の授業も大切にしたい。
- ・言うまでもなく、時事的な問題に興味・関心を持つことが大切である。日頃から新聞やニュースに触れ、社会の動きに明るい人は、政治や経済の問題を、主体的かつ公正に、より深く考察することができる。
- ・現代を考察するとき、現代を構築するに至るまでの歴史的認識は大変重要である。政治経済の場合は、特に第2次世界大戦後の日本や世界の時系列の知識や思考力が求められる。

2 学習の到達目標

- ・現代の政治や経済のしくみ、国際関係のあり方などを理解する。
- ・政治・経済の課題を認識し、良識ある公民として、主体的かつ公正にその課題に取り組む能力を育てる。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日本や世界で起こっている事象やその課題を意欲的に見だし、問題意識をもってその解決に取り組もうとする。	政治や経済のしくみ、国際関係のあり方を積極的に学び、内外の課題に対する各自の意見を持つとともに、各自の表現でそれを伝える。	政治や経済のしくみ、国際関係のあり方などを学ぶ上で、授業の学習教材や書籍、新聞、WEB サイトなどから適切な情報を収集し活用する。	良識ある公民としての判断力をもつとともに、将来の日本や世界のあり方を考察し、自己の考え方を確立する。
評 価 方 法	レポート 定期考査（記述問題）	ワークシート 定期考査（記述問題）	ワークシート 定期考査	レポート 定期考査（記述問題）

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期1	民主政治と憲法	・民主政治の基本原則 ・世界の政治体制 ・民主政治の課題 ・憲法の基本原則 ・憲法のあり方	○	○	○	○	a: 政治や憲法に関心を持ち、課題を見いだす b: 政治や憲法の課題を考察し、意見をまとめる c: 政治や憲法の知識を深める d: 憲法のあり方を考察する	レポート 定期考査 (記述問題)
前期2	現代の政治	・国会・内閣・裁判所 ・地方自治 ・戦後政治の歩み ・政党と選挙、政治参加	○	○	○	○	a: 政治に関心を持ち、課題を見いだす。 b: 政治の課題を考察し、意見をまとめる c: 政治に対する知識を深める d: 政治のあり方を考察する	ワークシート 定期考査 (記述問題)
前期3	現代の国際政治	・国際社会と国際法 ・国連と国際協力 ・現代国際政治の動向 ・核兵器と軍縮 ・人種・民族問題 ・国際政治と日本	○	○	○	○	a: 国際政治に関心を持ち、課題を見いだす。 b: 国際政治の課題を考察し、意見をまとめる c: 国際政治の知識を深める d: 国際政治のあり方を考察する	ワークシート 定期考査 (記述問題)
後期1	現代経済のしくみ	・経済社会の変容 ・企業・市場・国民所得 ・金融・財政 ・戦後の日本経済の歩み ・公害問題と消費者問題	○	○	○	○	a: 経済に関心を持ち、課題を見いだす b: 経済的な課題を考察し、意見をまとめる c: 経済に対する知識を深める d: 経済活動のあり方を考察する	ワークシート 定期考査 (記述問題)
後期2	国際経済の動向	・貿易・為替・国際収支 ・国際経済体制の変化 ・グローバル化と金融危機 ・地域経済統合 ・経済協力と人間開発	○	○	○	○	a: 国際経済に関心を持ち、課題を見いだす b: 経済的な課題を考察し、意見をまとめる c: 国際経済の知識を深める d: 国際経済のあり方を考察する	レポート 定期考査 (記述問題)

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 資料活用 of 技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	地学基礎（改訂版） 啓林館						
副教材等	ビーライン地学基礎、スクエア地学図表 第一学習社						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

前半は2年生に引き続き、天文、災害について学習します。教科書の記述から様々な現象をイメージする能力が大事です。災害分野では日頃の生活にも役立つことを扱います。防災意識も育ててください。後半では、問題演習を中心にを行います。

あれこれ手を広げるのではなく、授業で活用する教材をしっかり何度も復習してください。安易に暗記だけで済ましてしまいがちです。また、後からまとめて覚えてしまうだけでは、内容は身に付きません。短時間でもいいので日ごろから少しずつ復習することを忘れないでください。

2 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	規律ある授業態度で受講し、授業中の指示などを正しく聞いている。 授業中の指示に対して的確に応える。 指示された事項に終始せず、積極的な授業態度で学習に臨む。	学習内容を踏まえた文章を述べる。 単語の羅列や暗記事項の再生ではなく、工夫ある思考を行っている。 図や表を適切に利用した表現ができる。 他者の発表に正しい評価を行える。	目的を理解し、手順を守った実験を安全・確実に行っている。 単独行動のみならず、グループワークなどを重視して観察・実験に取り組めている。	科目の内容を正しく理解し、記述することができる。 設問などの意図を読み取り、適切に応えることができる。 日常生活に学習内容を当てはめることができる。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノート・ワークシートの記述 発表、発言	学習状況の観察 ノート・ワークシートの記述 探究活動の記録、発表 定期考査の結果	観察・実験の記録 ワークシートの記述	学習状況の観察 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 第一中間	宇宙の構成	太陽系の天体		○			a:宇宙にある天体について興味を持つ。 b:太陽系や宇宙の構成、星の一生について理解する。 c:身近にできる天体観測を通して、地球の動きを理解する。 d:問題演習に取り組む。	授業中の態度、レポート、探究活動などの成果、定期考査の結果
		太陽系の誕生		○				
		太陽			○			
		太陽と恒星		○				
		太陽の誕生と進化	○					
	前期 第二中間	銀河系とまわりの銀河	○				a:災害の種類と対策に関心を持つ。 b:災害の原因が理解できる。 c:データで災害を理解する。 d:問題演習に取り組む。	
		宇宙の姿	○					
自然との共生		地球環境と人類		○				プレゼンテーション発表とその受講態度
	火山・地震災害と社会		○					
	人間生活と地球環境の変化		○					
前期 期末	固体地球	復習・地球の概観・地球の内部構造				○	a:既習事項を振り返る。 b:自分なりに表現できる。 c:他者に説明できる。 d:内容を理解できている。	レポート作成・提出 グループワークの成果 過去問題・類似問題への取組
		復習・プレートテクトニクスと地球の活動、地震、火山活動と火山の形成				○		
	地史	復習・堆積岩とその形成、地層と地質構造、地球の歴史の区分と化石				○	a:既習事項を振り返る。 b:自分なりに表現できる。 c:他者に説明できる。 d:内容を理解できている。	
		復習・先カンブリア時代、顕生代				○		
後期 中間	気象	復習・大気圏・水と気象				○	a:既習事項を振り返る。 b:自分なりに表現できる。 c:他者に説明できる。 d:内容を理解できている。	
		復習・地球のエネルギー収支、大気の大循環、海水の循環				○		
		復習・日本の位置、冬から春の天気、夏から秋の天気				○		
		復習・太陽系の天体、太陽系の誕生、太陽				○		
	天文	復習・太陽と恒星、太陽の誕生と進化				○	a:既習事項を振り返る。 b:自分なりに表現できる。 c:他者に説明できる。 d:内容を理解できている。	
		復習・銀河系とまわりの銀河、宇宙の姿				○		
後期 期末	災害	復習・地球環境と人類、火山、地震災害と社会				○	a:既習事項を振り返る。 b:自分なりに表現できる。 c:他者に説明できる。 d:内容を理解できている。	過去問題・類似問題への取組
		復習・気象災害と社会、人間生活と地球環境の変化				○		

※表中の観点について a:関心・意欲・態度、b:思考・判断・表現、c:観察・実験の技能、d:知識・理解

※年間指導計画(例)作成上の留意点

原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成 31 年度 保健体育科

教科	保健体育	科目	体育（男子）	単位数	3 単位	年次	3 年次
使用教科書	「高等学校 改訂版 保健体育」（第一学習社）						
副教材等	「アクティブスポーツ」（大修館書店）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自己の能力に応じて体力の向上を図り、その過程において体験する運動の楽しさを学ぶこと。
また、チームスポーツを通じて協力、責任、リーダーシップ、対戦相手への敬意といった集団行動の資質を磨くこと。

2 学習の到達目標

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を培う。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断	c:運動の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	・自己の体力、技能を向上させる積極的な姿勢を身につける ・円滑な集団での運動実施のために必要となる協力的態度を身につける	・個々に応じた体力や技能を高めるためのトレーニングや練習を選択する力を身につける ・ゲーム場面での適切なプレーの選択、自己の役割を判断する ・集団の中での発言、リーダーシップ	・各運動技能を身につける ・身につけた運動を速く、正確に、力強く発揮する ・ゲームの場面において身につけた運動を発揮する	・スポーツのルールや、運動を安全に実施する方法を理解する ・自己の体力や技能を高める方法を理解する
評 価 方 法	・出席の記録 ・積極的姿勢を記録 ・協力的姿勢を記録	・技能や記録を伸ばすための工夫を記録 ・練習方法の観察及び記録 ・ゲームパフォーマンス（プレーの選択、周囲への声かけ、作戦など）の記録	・スキルテストやタイム計測などの記録 ・ゲームパフォーマンス（得点など）の記録	・各種目での準備や片付けを観察及び記録 ・ゲームや記録測定を観察及び記録 ・準備運動、整理運動、補強運動の観察及び記録
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

月	単 元 名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	・選択種目 (テニス)	基本技術 ラリー 簡易ゲーム	○				a: 参加意欲、取り組み態度 b: プレーの選択 c: スキルテスト d: ダブルスゲームルール理解	出席等記録 スキルテスト ゲーム実施
5	・選択種目 (柔道)	受身、体さばき 基本動作 対人的技能	○				a: 参加意欲、取り組み態度 b: 寝技の技の選択 c: 受身、寝技、立技 d: 受身、寝技、立技	出席等記録 寝技乱取り 技のテスト
6	・陸上競技 (6種)	円盤投 1500m 走 400m 走 100m 走 走り幅跳び 走り高跳び	○		○		a: 参加意欲、取り組み態度 b: 投げ方、跳び方、助走の工夫 c: 測定結果 d: 測定法の理解	出席等記録 記録測定
	・体づくり運動	縄跳び (前後 2 重跳び)	○		○		a: 参加意欲、取り組み態度 b: 独自の工夫 c: 記録 d: 仕組みの理解	出席等記録 回数記録
	・体育理論	体力トレーニング の意義と方法、 体力向上の理解	○	○		○	a: 参加意欲、態度 b: 自己に適した方法を理解 c: 補強運動を実施 d: 内容の理解	出席等記録 トレーニング 実施
	・水泳	4 泳法 (バタフライ・背泳・ 平泳ぎ・クロール)	○		○		a: 参加意欲、取り組み態度 b: 自己の体力と各泳法の技能 を考えた工夫 c: 記録 d: ルールと泳ぎの理解	出席等記録 記録測定
	・水泳	4 泳法のメドレー						
7								
9								
10	体育大会練習	体育大会準備 開会式、閉会式の 練習、出場種目練 習	○				a: 参加意欲、取り組み態度 b: 隊形変更等、クラス行進 c: ラジオ体操第二、クラス行進 d: 種目練習	出席等記録
	・選択種目 (バスケット)	基本技術 簡易ゲーム リーグ戦	○				a: 参加意欲、取り組み態度 b: プレー選択、チーム協力 c: ゲームパフォーマンス d: リーグ戦運営	出席等記録 リーグ戦個 人得点等記 録
11	・選択種目 (ハンド)	基本技術 簡易ゲーム	○				a: 参加意欲、取り組み態度 b: プレー選択、チーム協力 c: ゲームパフォーマンス d: リーグ戦運営	出席等記録 リーグ戦個 人得点等記 録
12		リーグ戦						

1	・サッカー	基本技術	○				a:参加意欲、取り組み態度 b:プレー選択、チーム協力 c:ゲームパフォーマンス d:リーグ戦運営	出席等記録 リーグ戦個人 得点等記録
2		簡易ゲーム リーグ戦						

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断
c:運動の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 保健体育科

教科	保健体育	科目	体育（女子）	単位数	3 単位	年次	3 年次
使用教科書	「高等学校 改訂版 保健体育」（第一学習社）						
副教材等	「アクティブスポーツ」（大修館書店）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自己の能力に応じて体力の向上を図り、その過程において体験する運動の楽しさを学ぶこと。
また、チームスポーツを通じて協力、責任、リーダーシップ、対戦相手への敬意といった集団行動の資質を磨くこと。

2 学習の到達目標

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を培う。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断	c:運動の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	・自己の体力、技能を向上させる積極的な姿勢を身につける ・円滑な集団での運動実施のために必要となる協力的態度を身につける	・個々に応じた体力や技能を高めるためのトレーニングや練習を選択する力を身につける ・ゲーム場面での適切なプレーの選択、自己の役割を判断する ・集団の中での発言、リーダーシップ	・各運動技能を身につける ・身につけた運動を速く、正確に、力強く発揮する ・ゲームの場面において身につけた運動を発揮する	・スポーツのルールや、運動を安全に実施する方法を理解する ・自己の体力や技能を高める方法を理解する
評 価 方 法	・出席の記録 ・積極的姿勢を記録 ・協力的姿勢を記録	・技能や記録を伸ばすための工夫を記録 ・練習方法の観察及び記録 ・ゲームパフォーマンス（プレーの選択、周囲への声かけ、作戦など）の記録	・スキルテストやタイム計測などの記録 ・ゲームパフォーマンス（得点など）の記録	・各種目での準備や片付けを観察及び記録 ・ゲームや記録測定を観察及び記録 ・準備運動、整理運動、補強運動の観察及び記録
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

月	単 元 名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	・選択種目 (バスケット)	基本技術 簡易ゲーム リーグ	○				a:参加意欲、取り組み態度 b:プレー選択、チーム協力 c:ゲームパフォーマンス d:リーグ戦運営	出席等記録 リーグ戦個人 得点等記録
5	・選択種目 (ハンド)	基本技術 簡易ゲーム リーグ戦	○				a:参加意欲、取り組み態度 b:プレー選択、チーム協力 c:ゲームパフォーマンス d:リーグ戦運営	出席等記録 リーグ戦個人 得点等記録
6	・バレーボール	基本技術 簡易ゲーム リーグ戦	○				a:参加意欲、取り組み態度 b:プレー選択、チーム協力 c:ゲームパフォーマンス d:リーグ戦運営	出席等記録 リーグ戦個人 得点等記録
	・体づくり運動	縄跳び (前後2重跳び)	○		○		a:参加意欲、取り組み態度 b:独自の工夫 c:記録 d:仕組みの理解	出席等記録 回数記録
	・体育理論	体力トレーニング の意義と方法、 体力向上の理解	○	○		○	a:参加意欲、態度 b:自己に適した方法を理解 c:補強運動を実施 d:内容の理解	出席等記録 トレーニング 実施
	・水泳	4泳法 (バタフライ・背泳・ 平泳ぎ・クロール)	○		○		a:参加意欲、取り組み態度 b:自己の体力と各泳法の技能 を考えた工夫 c:完泳達成、タイム d:ルールと泳ぎの理解	出席等記録 記録測定
	・水泳	4泳法のメドレー						
7								
9								
10	体育大会練習	体育大会準備 開会式、閉会式の 練習、出場種目練習	○				a:参加意欲、取り組み態度 b:隊形変更等、クラス行進 c:ラジオ体操第二、クラス行進 d:種目練習	出席等記録
	・選択種目 (テニス)	基本技術 ラリー 簡易ゲーム	○				a:参加意欲、取り組み態度 b:プレーの選択 c:スキルテスト d:ダブルスゲームルール理解	出席等記録 スキルテスト ゲーム実施
11	・選択種目 (卓球)	基本技術 簡易ゲーム	○				a:参加意欲、取り組み態度 b:プレー選択、チーム協力 c:ゲームパフォーマンス d:総当たり戦運営	出席等記録 試合結果を 記録
12		総当たり戦						

1	・バドミントン	基本技術	○				a:参加意欲、取り組み態度	出席等記録 試合結果を 記録
2		簡易ゲーム 総当たり戦					b:プレー選択、チーム協力 c:ゲームパフォーマンス d:総当たり戦運営	

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断
c:運動の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 理数科

教科	理数科	科目	理数数学特論(文科)	単位数	4 単位	年次	3 年次
使用教科書	なし						
副教材等	メジアン数学演習ⅠⅡAB(数研出版)・クリアー数学演習ⅠⅡAB(数研出版)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

・授業では、課題に対して、自ら考え、試行錯誤しながら問題解決に挑みます。

・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、答えを導きそのなかでは自分の考えを発表したり、議論する活動を行うこともあります。

・問題集用のノートを用意して下さい。問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。自分がどこでつまづいたかを知るための大切なものです。

2 学習の到達目標

入試問題を解くための基礎的な知識や技能を習得します。また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	理数数学ⅠⅡで学んだ単元の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらの事象への考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、理数数学ⅠⅡで学んだ単元における数学的な見方や考え方を身に付けている。	理数数学ⅠⅡで学んだ単元において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	理数数学ⅠⅡで学んだ単元における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	確認テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト ワークシート レポート 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

平成 31 年度 理数科

教科	理数科	科目	理数数学特論(理科)	単位数	6 単位	年次	3 年次
使用教科書	数学Ⅲ (数研出版)						
副教材等	チャート式基礎からの数学Ⅲ (数研出版)、スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B (数研出版) オリジナルスタンダード数学演習Ⅲ (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

・授業では、課題に対して、自ら考え、試行錯誤しながら問題解決に挑みます。

・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、答えを導きそのなかでは自分の考えを発表したり、議論する活動を行うこともあります。

・問題集用のノートを用意して下さい。問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。自分がどこでつまづいたかを知るための大切なものです。

2 学習の到達目標

微分法・積分法及び入試問題を解くための基礎的な知識や技能を習得します。また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	微分法・積分法及び理数数学ⅠⅡで学んだ単元の考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらの事象への考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、微分法・積分法及び理数数学ⅠⅡで学んだ単元における数学的な見方や考え方を身に付けている。	微分法・積分法及び理数数学ⅠⅡで学んだ単元において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	微分法・積分法及び理数数学ⅠⅡで学んだ単元における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	確認テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト ワークシート レポート 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとともに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

平成 31 年度 理数科

教科	理数	科目	理数物理	単位数	4 単位	年次	3 年次
使用教科書	改訂 高等学校 物理（第一学習社）						
副教材等	2017 セミナー 物理基礎＋物理（第一学習社） チェック＆演習 物理、2019 物理重要問題集（数研出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・予習よりも復習に重点をおいて学習してください。復習は、授業があった日、週の終わりに 1 週間分、単元の終わりに 1 単元分と複数回行うことが必要です。疑問点があればこまめに質問して解消して下さい。きちんと理解し、定着させるように復習を繰り返してください。
- ・授業用のノートと問題演習用のノート（またはルーズリーフ）を別に用意してください。
- ・授業中は各自が集中して説明を聞き、演示実験などをよく観察して考えるとき、演習や生徒実験などに他の人と協力して取り組むときでメリハリをつけるようにしてください。

2 学習の到達目標

物理現象をどのように扱うのかということを理解し、扱い方に習熟するようにしましょう。特に自然現象を、中心となる法則と、それを補足するためのいろいろな性質にいったん分けて整理し、それらを総合的に考えることで理解する方法を、いろいろな現象に応用できるようにします。

例として、コンデンサー、電流、電流と磁場、電磁誘導と交流、電子と光、原子と原子核などについて扱えるようにします。

物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察などを行い、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を持てるようにしてください。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら電磁気や原子物理について関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	電磁気や原子物理の事物・現象の中に問題を見だし、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	電磁気や原子物理に関する観察・実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	電磁気や原子物理の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	教材に対する取り組みの状況 演習や実験などの参加の程度 振り返りシートなど	教材に対する取り組みの状況 演習や実験などの参加の程度 定期考査の結果	教材に対する取り組みの状況 観察・実験の様子やレポート 定期考査の結果	教材に対する取り組みの状況 定期考査の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	電場と電位	・コンデンサー内部の電場や電位の様子を理解し、電気容量について計算できる。 ・コンデンサーの極板の電気量やその変化について考えながらコンデンサーを含む回路について計算できる。 ・抵抗も含めた回路についてキルヒホッフの法則を適用して振る舞いを計算できる。 ・ダイオードなど半導体の基本的な特性もふまえて、回路の振る舞いが計算できる。	○	○		○	a:コンデンサーや抵抗, ダイオードを含んだ回路について関心を持ち, 自ら進んで定量的に考えようとする。 b: コンデンサーや抵抗, ダイオードについて基本的な構造から, 回路の中での振る舞いを考えることができる。 c:電流計や電圧計, 回路などを適切に使うことができる。 d:コンデンサー, 抵抗, ダイオードなどの性質を理解している。	教材に対する取り組みの状況 レポートなど 定期考査の結果
	電磁誘導と交流	・電流の磁気作用について基本的な性質を知っている。 ・電流が磁場から受ける力やローレンツ力の基本的な性質を知っている。 ・ローレンツ力などを基にして電流や荷電粒子の運動を考えることができる。 ・電磁誘導の基本的な性質を知っている。 ・誘導起電力を考えた導線の運動などを計算できる。 ・コイルのインダクタンスについて知り, それを含めた回路の振る舞いについて計算できる。 ・交流の発生について基本的な知識を持っている。 ・交流に対する各素子の振る舞いについて基本的な知識を持ち, 電流や電圧の変化の様子がわかる。 ・各素子を含む回路の基本的な計算ができる。 ・電磁波の発生やその種類について基本的な知識を持っている。	○			○	a:電流、磁場、電磁誘導や交流、電磁波などについて関心を持ち, 自ら進んで定量的に考えようとする。 b: 電磁誘導の法則, ローレンツ力, コイルやコンデンサーの基本的な性質をもとに, いろいろな現象について考えることができる。 c: 変化する磁場が電場を作ること, ローレンツ力による運動, コイルやコンデンサーの交流に対する振る舞いなどを観察し, 考えることができる。 d: 電磁誘導の法則や自己誘導・相互誘導、交流に関する現象について基本的な使い方をきちんと理解している。	教材に対する取り組みの状況 レポートなど 定期考査の結果

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
 c:観察・実験の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3016
------	------

平成 31 年度 理数科

教科	理数	科目	理数化学	単位数	6 単位	年次	3 年次
使用教科書	改訂化学（東京書籍）						
副教材等	自主編集プリント集, ニューステージ新化学図表(浜島書店), セミナー化学基礎+化学(第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

化学的な事物・現象についての観察、実験や探究活動などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・原則を理解させ、周囲の物質やその変化の理解を通して、科学的な思考力に基づく自然観を養成する。
「有機化学・無機化学及び高分子化合物」と「理論」との2分野に分けて、並行して授業を行う。

2 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	化学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導きだした考えを的確に表現している。	化学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・原則について理解を深め、知識を身に付けている。
評 価 方 法	普段の学習状況 実験の取り組み 提出物	普段の学習状況 実験の取り組み 提出物 定期考査 小テスト	普段の学習状況 実験の取り組み 提出物	普段の学習状況 実験の取り組み 提出物 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単 元 名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期①	高分子化合物 化学反応とエネルギー	単糖類・二糖類				○	a:高分子化合物や化学反応と熱・光に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。 b:高分子化合物や化学反応と熱・光に関する事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断できる。 c:観察、実験の技能を習得するとともに、高分子化合物や化学反応と熱・光に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 d:観察、実験を通じて、高分子化合物に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身に付けている。	授業観察 実験レポート 問題演習 小テスト・定期考 査
		多糖類	○		○			
		反応熱と熱化学方程式		○				
		ヘスの法則	○		○			
前期②	高分子化合物 化学反応の速さと平衡	アミノ酸	○		○		a:高分子化合物や化学反応の速さと化学平衡に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。 b:高分子化合物や化学反応の速さと化学平衡に関する事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断できる。 c:観察、実験の技能を習得するとともに、高分子化合物や化学反応の速さとともに化学平衡に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 d:観察、実験を通じて、高分子化合物と化学反応の平衡と速さに関する事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身に付けている。	授業観察 実験レポート 問題演習 小テスト・定期考 査
		タンパク質	○		○			
		核酸				○		
		合成繊維	○		○			
		プラスチック				○		
		ゴム				○		
		反応の速さ		○				
		反応の速さを決めるための条件		○				
		反応のしくみ				○		
		可逆反応と化学平衡				○		
		平衡の移動		○				
		電離平衡		○				
		塩の水への溶解		○				
前期③	平衡 無機物質 物質の状態と	周期表と元素				○	a:無機物質と物質の状態変化やその平衡に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	授業観察 実験レポート 問題演習 小テスト・定期考
		水素と希ガス				○		
		ハロゲンとその化合物	○		○			
		酸素・硫黄とその化合物	○		○			

		窒素・リンとその化合物	○		○		b: 無機物質と物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断できる。 c: 観察、実験の技能を習得するとともに、無機物質と物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 d: 観察、実験を通じて、無機物質と物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身に付けている。	査
		炭素・ケイ素とその化合物				○		
		物質の三態				○		
		気体・液体間の状態変化				○		
		結晶				○		
		金属の結晶		○				
		イオン結晶の構造		○				
		その他の結晶と非晶質		○				
		気体				○		
		気体の状態方程式		○				
	後期 ①	アルカリ金属とその化合物	○		○			授業観察 実験レポート 問題演習 小テスト・定期考 査
		2族元素とその化合物	○		○			
		1, 2族以外の典型金属元素とその化合物	○		○			
		遷移元素とその化合物				○		
		金属イオンの分離・確認	○		○			
		金属				○		
		セラミックス				○		
		溶解		○				
		希薄溶液の性質	○		○			
		コロイド	○		○			
	後期 ②	入試問題演習		○				授業観察 実験レポート 問題演習 小テスト・定期考 査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成31年度 理数科

教科	理数	科目	理数生物	単位数	4単位	年次	3年次
使用教科書	「生物」 (東京書籍)						
副教材等	リードα 生物基礎＋生物 (数研出版) スクエア最新図説生物 (第一学習社) チェック&演習生物 (数研出版) 生物重要問題集—生物基礎・生物— (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・日常生活の中で起こるさまざまな自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。
- ・単に用語を暗記するのではなく、自然現象のメカニズムを理解することが重要である。
- ・予習よりも、復習に重点をおいて学習する。
- ・学習した単元の問題演習を行い、理解を深める。

2 学習の到達目標

- 1 「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。
- 2 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。
- 3 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。
- 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	観察、実験を行い、それらの結果を予測し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察、問答	学習状況の観察、問答、定期考査の結果	学習状況の観察、問答、定期考査の結果	学習状況の観察、問答、定期考査の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期1	生物の環境応答	動物の刺激の受容と反応			○	○	a: 生物の環境応答と生態と環境に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的態度を身に付けている。 b: 生物の環境応答と生態と環境に関する事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断できる。	学習状況の観察、問答、定期考査の結果
前期2		動物の行動 植物の環境応答	○	○ ○		○		学習状況の観察、問答、定期考査の結果
前期3	生態と環境	個体群と生物群集 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 生態系の生物多様性	○ ○	○	○	○	c: 観察、実験の技能を習得するとともに、生物の環境応答と生態と環境に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 d: 観察、実験を通じて、生物の環境応答と生態と環境に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身に付けている。	学習状況の観察、問答、定期考査の結果
後期1	生物の進化と系統	生命の起源と生物の変遷 進化のしくみ 生物の系統	○ ○ ○		○	○ ○	a: 生物進化と系統に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的態度を身に付けている。 b: 生物進化と系統に関する事物・現象	学習状況の観察、問答、定期考査の結果

学校番号	3016
------	------

平成 31 年度 英語科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名・副教材名
英語	英語表現	2	第 3 学年	三訂版 入試必携英作文 Write to the Point、POWER STAGE 英文法・語法問題

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・昨年度は基本的な例文・英作文を中心に学習してきました。その基礎を最大限に活用して、難易度の高い英作文に取り組みましょう。
- ・英作文を行ううえで最も大切なことは、使い慣れた表現をできる限り用いることです。POWER STAGE で習った用法を使えるようにしましょう。

2 学習の到達目標（CAN-DO リストによる当該学年の 4 技能の到達目標）

【第 3 学年】履修科目：「英語理解」（4 単位）及び「英語表現」（2 単位）

主な教材：上記科目の教科書、教科書の内容に関連した別教材

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
・様々なトピックについて、具体例を用いて、論理展開が明確で、説得力のあるプレゼンテーションができる。 ・発表を聞き、質問したり、相手を説得したりするために自分の意見を述べることができる。	英語理解 英語表現 ・スピーキング活動	・様々なトピックに関して、時間をさほどかけずに、論点を明確にした上で、明確な論理展開の文章を書くことができる。 ・図表の特徴を的確に分析し、それに関して自分の意見を明確に述べることができる。	英語理解 英語表現 ・定期考査 ・パラグラフライティング	・自然な速さで話される様々な分野の講義や討論等を聞いて、必要に応じてメモを取りながら全体の概要を理解することができる。	英語理解 英語表現 ・リスニング テスト ・定期考査	・様々なトピックの評論文などを一定時間内に読み、全体の要旨を理解することができる。 ・社会的な話題や時事問題等についての評論文を精読し、情報や論理展開を的確に理解することができる。	英語理解 英語表現 ・定期考査 ・速読記録

3 学習評価（評価の観点と実施方法）

観 点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての 知識理解
実 施 方 法	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを的確に評価できる方法で実施。	CAN-DO リストによる「話すこと」と「書くこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	CAN-DO リストによる「聞くこと」と「読むこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解しているかどうかを的確に評価できる方法で実施。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
三訂版 入試必携 英作文 Write to the Point (30 時間)	1.主語の決定(1) 2.主語の決定(2) 3.目的の表現 4.理由の表現	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
	5.時制(1) 6.時制(2) 7.動詞の語法 8.関係詞 9.時間の表現 10.数字の表現	自分の意見を表現するとともに、積極的にコミュニケーションを図る。	例文を積極的に音読する。間違いを恐れず、自分の意見を表現し、コミュニケーションする。	間違えることを恐れず、積極的に表現し、発話者の発言内容を理解しようとしている。	ワークシート 観察 スピーチテスト
	11.仮定・条件の基本 12.仮定・条件の応用 13.比較の基本 14.比較の応用 15.譲歩の表現 16.重要表現(1) 17.重要表現(2) 18.A は…だ 長文英作文 自由英作文 要約問題	「英語表現の能力」			
		学んだ文法・表現を効果的に用いて正確な文を書くことができる。パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。	例文を通して言語材料となる表現を確認し、場面を想定して英語でまとめた内容を表現する。	学んだ文法・表現を使って、効果的に文を書くことができる。パラグラフの構成に基づいて論理的な文章を書くことができる。	定期考査 エッセイ・ライティング
		「英語理解の能力」			
		例文を文法的に理解し、自分で書いた英文が文法的に正しいかどうかを確認することができる。	生徒の書いた英文を確認し合うことで、文法的に確認し添削し合う。	他の生徒が書いた英文の確認をすることができる。	定期考査 観察
		「言語や文化についての知識・理解」			
		ポイントとなる語法・構文を理解する。	例文で用いられている用法を確認する。	学んだ文法・表現を理解し、知識として定着させている。	定期考査

学校番号	3016
------	------

平成 31 年度 英語科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名・副教材名
英語	英語理解	4	第 3 学年	SKYWARD 最新入試英語長文 20 選 COSMOS Course

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

昨年度は、3 学年用の教科書を用いて学びましたが、今年度は入試問題集に取り組みます。4 技能を用いて効率的に英語を学んでいきましょう。読むだけではありません。話して、聴いて、書くことで初めてその英文について理解を深めることができます。頑張りましょう。

2 学習の到達目標（CAN-DO リストによる当該学年の 4 技能の到達目標）

【第 3 学年】履修科目：「英語理解」（4 単位）及び「英語表現」（2 単位）

主な教材：上記科目の教科書、教科書の内容に関連した別教材

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
・様々なトピックについて、具体例を用いて、論理展開が明確で、説得力のあるプレゼンテーションができる。 ・発表を聞き、質問したり、相手を説得したりするために自分の意見を述べることができる。	英語理解 英語表現 ・スピーキング活動	・様々なトピックに関して、時間をさほどかけずに、論点を明確にした上で、明確な論理展開の文章を書くことができる。 ・図表の特徴を的確に分析し、それに関して自分の意見を明確に述べることができる。	英語理解 英語表現 ・定期考査 ・パラグラフライティング	・自然な速さで話される様々な分野の講義や討論等を聞いて、必要に応じてメモを取りながら全体の概要を理解することができる。	英語理解 英語表現 ・リスニングテスト ・定期考査	・様々なトピックの評論文などを一定時間内に読み、全体の要旨を理解することができる。 ・社会的な話題や時事問題等についての評論文を精読し、情報や論理展開を的確に理解することができる。	英語理解 英語表現 ・定期考査 ・速読記録

3 学習評価（評価の観点と実施方法）

観 点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての 知識理解
実施方法	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを的確に評価できる方法で実施。	CAN-DO リストによる「話すこと」と「書くこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	CAN-DO リストによる「聞くこと」と「読むこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解しているかどうかを的確に評価できる方法で実施。

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
SKYWARD 最新入 試英語 長文20 選 COSMOS Course (70時間)	・比較文化 ・歴史学 ・エネルギー ・環境問題 ・医療 ・日常生活 ・自然生物 ・エッセイ ・心理学 ・社会学 ・メディア ・脳科学 ・宇宙論 ・国際情勢 ・科学技術 ・教育 ・社会問題 ・産業 ・物語 ・哲学	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		各トピックに対する関心を持ち、意欲的に学習するとともに、積極的に考察しようとする。	キーワードをもとにしながら、各トピックについて、簡単な英語を用いてグループで伝え合う。	積極的にトピックについての情報や自分の考えを話している。	ワークシート 観察
		「英語表現の能力」			
		各トピックについての説明を読み、その内容について、簡潔に説明・要約する文章を書く。	トピックについて簡潔な説明文や要約文を書く。	各トピックについて簡潔に説明する文や要約文を書くことができる。	ワークシート 観察 定期考査
		「英語理解の能力」			
		各トピックについての説明を読み、その内容を正確に理解する。	『予習・復習ノート』を利用して、文章の論理の展開を読み取りながら、その概要を把握する。	文章の論理の展開を読み取りながら、各文章の概要や要点を捉えることができる。	定期考査 予習・復習ノート
		「言語や文化についての知識・理解」			
		ポイントとなる語法・構文を理解する。	・本文を理解するのに必要な文化的背景を理解する。 ・本文中で用いられている意味や用法を確認する。	・本文の内容を理解するのに必要な文化的背景について理解している。 ・語法・構文の使い方理解している。	定期考査